平成３０年度北区政策提案協働事業報告書

令和元年１２月

地域振興部地域振興課

目　　次

第１章　政策提案協働事業の制度について
１．　政策提案協働事業の概要…… １
２．　募集事業の流れ…… ２
３．　事業募集について…… ３

第２章　実施事業の概要
１．　プログラミング教育の啓発事業　…… ４
２．　北区子どもの多様な育ちを支える地域連携事業　…… 13

第３章　政策提案協働事業の評価について
１．　評価の目的……４８
２．　事業の評価方法……４８
３．　評価項目……４８
４．　評価の流れ……４８
５．　事業の実施主体による評価……４９
６．　選定委員会による評価……５３

第１章　政策提案協働事業の制度について

１．　政策提案協働事業の概要

北区では、平成 19 年度に区民、NPO、ボランティア団体等の自主的な公益活動に助成を行うため北区協働推進基金を創設しました。

本事業は、この基金を活用し、NPO やボランティア団体等の主体的な関わりの下で区との協働によるまちづくり事業を進め、多様で豊かな地域社会を実現することを目的としています。

北区内に活動拠点を有するNPO、ボランティア団体等の公益活動を行う団体から、先駆的で公益性の高い事業を提案（以下「提案事業」という。）していただき、採択された事業について、区と協働で取り組んでいきます。

募集する事業は、区の地域課題の解決に向け、新たな視点で提案団体と区が取り組むことのできる事業です。

事業経費のうち区が負担する額は、年間３００万円を上限とします。

この事業費は提案団体と区の双方の経費になり、その割合は提案団体と主管課とのヒアリングの際に検討します。

事業を継続する場合の区が負担する事業費については、２年間の事業の場合は計５００万円、３年間の事業の場合は計６５０万円を上限とし、その範囲内で各年度間の区の負担額を決めます。

応募していただいた提案は、提案団体と提案に関連する主管課（以下「主管課」という。）とのヒアリングを実施し、書類審査、プレゼンテーションにより北区協働地域づくり推進事業選定委員会（以下「選定委員会」という。）が審査します。

平成２９年度は、７事業の応募があり２事業が選定され、３０年度に実施しました。

２．　募集事業の流れ

【平成２９年度】

事業説明会　（6月17日、22日）

↓

事業募集（7月3日～8月4日）

事前相談

↓

申請書提出

↓

主管課とのヒアリング

↓

第一次審査（書類審査）（10月上旬）

↓

第二次審査（公開プレゼンテーション）（11月上旬）

↓

審査結果公表（12月初旬）

↓

実施に向けての協議（12月～30年3月）

予算確定、事業化決定（3月）

【事業説明会（自由参加）／事前相談】
事業概要や提出書類について説明します。
2日で3回実施しました。
また、事前相談では申請書の書き方などの相談を受け付けます。

【申請】
申請事業に関する書類（所定の書類）や団体に関する書類（名簿や規則など）を提出。

【ヒアリング】
主管課と事業化に向けて協議を行っていただきます。より実現性の高い事業となるよう事業内容の詳細を検討していきます。

【審査】
北区協働地域づくり推進事業選定委員会が対象事業を審査します。

【公表】
事業概要や団体名を公表します。

【実施に向けての協議】
事業実施に向けて、主管課を交えたワークショップ等を行い、具体的な協議を進めていきます。

【平成３０年度】

協働事業開始（4月）

事業の経過報告

事業終了（31年3月）

【経過報告】
四半期ごとに事業執行状況報告書を提出。

【令和元年度】

事業評価　完了報告書提出（平成31年4月）

完了報告会（6月9日）

【事業評価】
事業終了後、事業効果や実施手法等についての評価を行います。

３．　事業募集について

（１）審査基準

審査対象	審　査　基　準
第一次 審査基準 （書類審査）	①事業目的は地域課題の解決を目的としたものか
	②事業手法に独自性、先駆性等提案団体の特性が認められるか
	③適切な役割分担となっているか
	④提案事業は実現可能か
	⑤協働で取り組むことによる事業効果を認めることはできるか
第二次 審査基準 （プレゼンテーション）	①提案団体に事業の実現に対する熱意・意欲が感じられるか
	②提案団体に事業を実現する能力を認めることができるか
	③提案団体に新しい課題に対するチャレンジ精神を認めることはできるか
	④事業内容に整合性が認められるか
	⑤協働への取組により提案団体、区に相乗効果が期待できるか
	⑥総合的観点から、実施すべき事業と認めることができるか

（２）選定事業

	事業名	団体名
１	プログラミング教育の啓発事業 (H30 年度～R2 年度)	NPO 法人プログラミング 教育研究所
２	北区子どもの多様な育ちを支える 地域連携事業 (H30 年度～R2 年度)	特定非営利活動法人 東京シューレ

第２章　実施事業の概要

１．プログラミング教育の啓発事業

提案団体　NPO 法人プログラミング教育研究所
主 管 課　生涯学習・学校地域連携課

（１）団体概要

２０１６年より、北区社会教育関係団体として赤羽文化センターなどで小中学生向けのプログラミング教室を開催。

２０１７年４月４日、『将来を担う子どもたちや一般市民にプログラミング教育、コンピュータサイエンスを普及、推進する事業を通じて、プログラミング教育の意義や在り方を提言し、健全な情報化社会の発展に寄与することを目的』として、NPO 法人プログラミング教育研究所を設立。

（２）事業目的

2020 年プログラミング教育の小学校での必修化を見据え、「教育先進都市・北区」にふさわしいプログラミング教育のありかたを地域が一体となって創造する。

（３）事業概要

① 教育ボランティアの育成

本年度 80 名のボランティア登録を得て、ボランティアと共にプログラミング教室を開催し、コンテストを実施した。

② プログラミング教室の開催

文化センターや小中学校でプログラミング教室を開催し、延べ２，000 名以上の児童・生徒が参加した。

③ プログラミング・コンテストの実施

2019 年１月２７日、総勢約 200 名の参加により、第１回北区こどもプログラミング・コンテスト優秀作品発表会を開催した。

（４）役割分担

団　　体：

- プログラミング教育教材の調査・開発
- ボランティア育成
- ボランティアと共に小中学校や文化センターでの
  プログラミング教室の開催
- プログラミング・コンテスト事務局の運営と授賞式の開催
- 協賛・賞品提供企業の開拓と連絡調整

主 管 課：

- 区民に対する本事業の広報支援
- 区内の小中学校・教育関連団体との連絡調整
- 北区と東洋大学との教育分野における連携の活用
- コンテスト審査員・表彰者としての参加

（５）事業の実施内容

① 教育ボランティアの育成

・ボランティア登録講習会を年度内２回実施した。

・高校生からシニアまでの幅広い市民８０名が参加登録。

・毎回４名～8 名程度のボランティア参加により、文化センターおよび小中学校で教室を開催した。

・2019 年度は、８０名中３４名が活動を継続。

② プログラミング教室の開催

・文化センター及び小中学校で、計 108 回、約 131 時間の教室を開催し、延べ 2,282 名が参加した。

総時間（時間）	131.8
総回数（回）	108
延べ参加者（人）	2,282
平均時間（分／教室）	73.2
参加人数（人／教室）	21.1

以下 URL にて活動の様子をご報告しています。

https://kita.j-code.org/kitaku/category/report/

●文化センターでの教室開催

赤羽文化センター、中央公園文化センター、滝野川文化センターでは、ボランティアとともに、プログラミング教室を開催した。3 文化センターで年 2 度開催される『子どもひろば』にも参加し、多くの子どもたちがプログラミングを体験する場を提供した。

2018 年 12 月 8 日中央公園文化センター
（クリスマスツリーを作り、LED やスピーカーをプログラミングで制御）

●小中学校での教室開催

授業のお手伝い、夏休みの課外授業、パソコンクラブ指導、わくわく☆ひろばでの教室開催を行う。

・授業のお手伝い

八幡小学校
滝野川第三小学校
岩淵小学校
十条台小学校
赤羽小学校
桐ヶ丘中学校
赤羽岩淵中学校

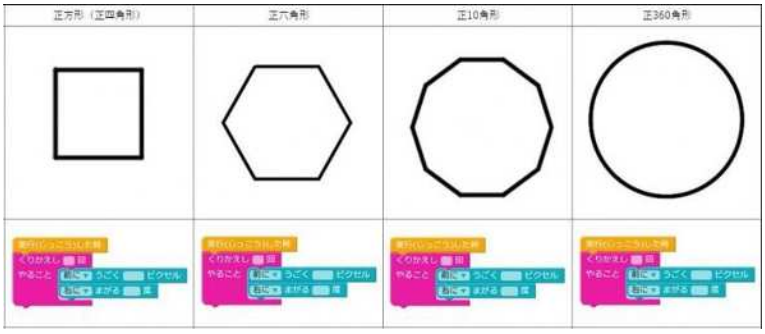
・パソコンクラブ指導
　袋小学校
　神谷小学校
・わくわく☆ひろば
　赤羽台西小学校

●教材と教室の内容

Code.org（コード・ドット・オルグ）と、micro:bit（マイクロビット）を教材として利用した。

Code.org は、画面上のキャラクターをプログラムで動かすもので、図形をかいたり、ゲームを作ることができる。

以下のプリントは、5 年生の算数の授業用。プログラミングで正多角形をかく問題。



プログラミングで正多角形をかく

マイクロビットは、小さなコンピューター。
モーターをつなげて、ロボットカーをつくったり、
スピーカーをつなげて音楽をならしたりした。

③プログラミング・コンテストの実施

2019 年 1 月 27 日（日）、第 1 回 北区こどもプログラミング・コンテスト優秀作品発表会を実施した。民間主導ではなく、教育委員会と NPO の共催として行われるプログラミング・コンテストは都内初めて。

区長、教育長、坂村教授など豪華な顔ぶれのなか、応募作品 77 作品の中から、優秀作品 5 作品の紹介と各賞の表彰をおこなった。

以下の URL で作品を紹介しています。
https://j-code.org/contest/2018/

●実施スケジュール
・2018 年 10 月 1 日～11 月 11 日　作品募集（応募 77 作品）
・2018 年 12 月 10 日　審査委員会
・2019 年 1 月 27 日　優秀作品発表会

●審査委員
・坂村　健 INIAD 東洋大学情報連携学部 学部長
・藤倉　純子 女子栄養大学　栄養学部　教授
・石川　正敏 東京成徳大学　経営学部　准教授
・大﨑　章弘 お茶の水女子大学　特任講師／科学コミュニケーター
・野間　俊彦 前北区立赤羽台西小学校長

（7）事業の成果や課題

①教育ボランティアの育成
・予想より多くのボランティアが集まり、区民の関心の高さを実感した。
・ボランティアが中心となり、教室やイベントを開催した。
・今後の課題：教室の企画や講師を NPO が行ってしまうことが多く、ボランティアに企画や講師をお願いする機会が少なかった。

③ プログラミング教室の開催
・多くの子どもたちにプログラミングを体験してもらうことができた。
・多くの小中学校で教室を開催できた。
・今後の課題：低学年の参加が多く、高学年の参加が少なかった。高学年の参加を促す教室づくりを検討したい。
・今後の課題： 2020 年度のプログラミング教育本格実施を控え、小学校での教室開催をさらに強化したい。

④ プログラミング・コンテストの実施
・プログラミングを学ぶきっかけづくり、学習成果の発表の場として成功裏に開催できた。
・コンテストをきっかけに、企業や大学との関係構築ができた。
・今後の課題：発表会が表彰にかたより、やや面白みにかけるものとなった。次回は、より参加した子どもたちが楽しめる企画にしたい。

⑤ 全体的な課題

・全体としては、想定以上に上手く進んでいるが、北区の小中学校や区民に十分に認知されたとは言えない。教室の内容の拡充とともに、広報活動を強化し、2020 年度の小学校での必修化に備えたい。

（8）２０１９年度の取り組み

２０１９年度も、ボランティアの育成、教室開催、コンテスト開催を柱としてプログラミング教育の啓発・普及を進めていきます。

２０１９年度は、全校配布チラシを強化して広報活動を強化し、教室で活用するための冊子を作成し、教室の内容向上と共に、ボランティアが講師として積極的に教室を運営する体制を目指します。

（6）事業の決算額

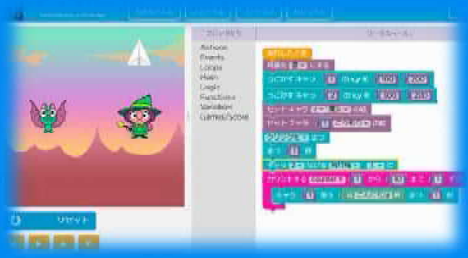
区　　分	項　　目	金　　額（円）
収入	北区負担金	2,115,000
	団体負担金	18,409
	協賛金	10,000
	収入計	2,143,409
支出	会場使用料	125,160
	ネット利用料	2,812
	人件費・謝金	143,400
	通信費・資料代	26,493
	旅費交通費	604,030
	消耗品費	1,088,325
	広告宣伝費	125,289
	保険料	27,900
	支出計	2,143,409

北区政策提案協働事業

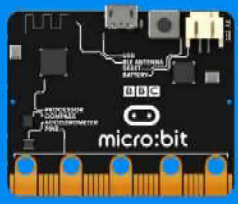
プログラミング 無料教室

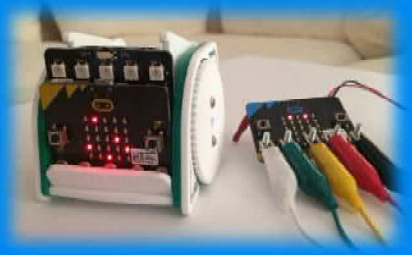
共催：北区教育委員会
NPO法人プログラミング教育研究所

プログラミングで、ものがたりやゲームを作ろう
教材：CODE.ORG（コード ドット オルグ） 低学年～中学生向け



電子工作とプログラミングでいろんな作品をつくろう
教材：micro:bit（マイクロビット） 高学年～中学生向け





学習支援
ボランティア募集！
プログラミングを学びたい教えたい
子どもや地域の為に何かしたい
プログラミング経験は不要です

政策提案協働事業とは

2020年プログラミング教育が小学校で必修化されます。
「教育先進都市・北区」にふさわしいプログラミング教育を地域のちからで創造するため、NPOと北区が協働し３つの事業をはじめました。

★ 無料プログラミング教室の開催
★ 学習支援ボランティアの育成
★ 北区プログラミングコンテストの開催

詳しくはホームページで

NPO法人 プログラミング教育研究所（きょういくけんきゅうじょ） 検索

問合せ先 TEL: 090-8494-5524 Email: npo@j-code.org http://J-CODE.ORG/

北区政策提案協働事業

北区こども プログラミング コンテスト

～ゆめを かたちにしよう～

コンテスト作品を大募集します！

募集期間：2018年10月1日（月）～ 11月11日（日）

優秀賞には豪華な副賞をご用意しています。
努力賞100名には図書カード500円を贈呈！

優秀作品発表会　**2019年1月27日（日）**　午後２時から
北とぴあ つつじホール

※作品応募者とその保護者のかたを優先してご招待します

協賛・賞品提供

日本マイクロソフト㈱
㈱なとり
日本ノーベル㈱

後援

未来の学びコンソーシアム

作品作りのために、マイクロビットを無料で貸し出します。

募集内容： プログラムや、プログラミングを使用した作品、あるいはプログラミングを題材にした作品

応募資格： 北区在住・在学・あるいは北区在所の団体に所属する小中学生

応募方法： HTTP://J-CODE.ORG より お申込みください

http://j-code.org

いまからでも、まにあう！

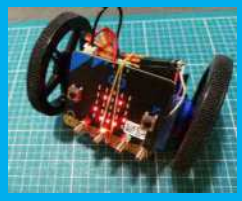
参加費 無料

プログラミング教室

作品のつくりかたを学んで コンテストに おうぼしよう

9月23日、10月7日、10月14日、10月28日、11月４日（申込はHPより）

教室会場：赤羽文化センター（赤羽駅前ビビオ３F）



HTTP://J-CODE.ORG NPO法人プログラミング教育研究所
Mail: npo@j-code.org TEL:090-8494-5524 担当：伊藤

北区教育委員会 生涯学習・学校地域連携課
TEL:03-3908-9323 担当：川杉・小野

北区こどもプログラミングコンテストのご案内

概要	北区の小中学生を対象に、プログラミングを学ぶきっかけ作りや学んだ成果の発表の場として、北区こどもプログラミングコンテストを開催します。 テーマは「ゆめをかたちにしよう」。 作品の形式は問いません。はじめてつくったプログラム、プログラミングを勉強して感じたことや、こんなことができたら良いなというゆめを、かたちにしてください。作品を応募して、2019年1月27日の優秀作品発表会に参加しよう。
審査委員	女子栄養大学、東京成徳大学、お茶の水女子大学、東洋大学（予定） 北区教育委員会、NPO法人プログラミング教育研究所
協賛・賞品提供	日本マイクロソフト株式会社、株式会社なとり、日本ノーベル株式会社
後援	未来の学びコンソーシアム
応募資格	北区在住・在学・あるいは北区在所の団体に所属する小中学生 ※応募はひとり１作品とします。 ※団体や複数人での応募も可能ですが、受賞は代表者のみとなります。
募集内容	プログラムや、プログラミングを使用した作品、あるいはプログラミングを題材にした作品。 ※プログラミングの言語やツールなどは問いません。プログラミングをテーマにした感想文などもOKです。
審査基準	創意工夫
各賞・副賞	優秀賞には豪華な副賞をご用意しています。 作品を応募して優秀作品発表会に参加したひとのなかから、100名に努力賞として図書カード500円を贈呈します。
応募方法	ホームページ HTTP://J-CODE.ORGにアカウントを作成して、オンラインで応募ください。 ※アカウント作成には保護者の手続きが必要です。
募集期間	2018年10月1日（月）～11月11日（日）
優秀作品発表会	2019年1月27日（日）午後２時より、北とぴあ つつじホールにて、優秀作品の紹介、各賞の発表、副賞の贈呈を行います。作品を応募した参加者とその保護者のかたを優先してご招待しますので、ふるってご参加ください。

無料プログラミング教室のご案内

場所	赤羽文化センター（赤羽駅前ビビオ３Ｆ）
日付	9月23(日)、10月7日(日)、10月14日(日)、10月28日(日)、11月4日(日)
参加費	無料
内容	ゲームや物語、ロボットや楽器などをつくりながら、プログラミングを学びます。教室でつくった作品を、そのままコンテストに応募してもOKです。

北区子どもの多様な育ちを支える地域連携事業

平成３０年度事業報告書

特定非営利活動法人東京シューレ
理事長　奥地圭子

提案団体：特定非営利活動法人東京シューレ
主 管 課：教育指導課　教育総合相談センター

１．団体概要

１９８５年に東十条において不登校・学校に行かない子どもを対象とした学校外の子どもの居場所・学び場として親・市民によって設立し、１９９９年に北区で最初のＮＰＯ法人として東京都より認証。現在の主な事業として①フリースクールの運営（北区王子、新宿区、大田区、流山市）、②在宅不登校・ホームエデュケーション家庭のネットワーク運営、③若者による自主大学の運営、④行政との連携協働事業、⑤調査研究・政策提案等の活動、⑥海外オルタナティブ教育等との連携や交流等を実施している。全国の不登校の親の会やフリースクールのセンター的役割も果たしてきている。２００７年には教育特区を活用して学校法人東京シューレ学園東京シューレ葛飾中学校を開校。

２．事業の目的

- 不登校の子ども・家庭を対象の中心に、学校以外の場を含めた多様な育ちや学びへの支援が区民に届く北区にすること
- 民間同士の連携、公民の連携を促進し、相互の情報交換と協働のしくみをつくること
- 区の不登校児童・生徒の支援に民間フリースクールのノウハウを提供すること

３．役割分担

（1）提案団体（東京シューレ）

- 子どもの支援に関する団体（民間 NPO 等）への連絡調整。
- 公民の支援機関団体の情報収集とホームページの作成提供。
- シンポジウムの企画と開催。
- 適応指導教室の実施提供と支援例の提供。
- 事業全体の事務局的機能、スケジュール管理、実施会場の確保、予算の執行

（2）区（教育指導課、教育総合相談センター）

・区立学校長への連絡と協力要請。

・区立学校・PTA、子ども未来部、健康福祉部、都北児童相談所等への連絡と協力要請、広報協力

・地域関係者団体への連絡と協力要請、広報協力

・実施会場の調整・手配またはアドバイス

４．打ち合わせ・定例会の開催

計８回開催

第１回　平成３０年１月１２日（金）

第２回　平成３０年２月６日（火）

第３回　平成３０年３月７日（水）

第４回　平成３０年４月６日（金）

ホップ・ステップ・ジャンプ教室指導員との顔合わせ　平成３０年４月２６日（木）

第５回　平成３０年７月２日（月）

第６回　平成３０年１０月１０日（水）

第７回　平成３１年１月２１日（月）

第８回　平成３１年２月２８日（木）

５．事業概要および実施概要

下表の４つの個別事業を実施した。

事業	実施計画概要	参加者等の状況
個別事業①	子どもの多様な育ちを支える地域支援者団体等の情報交換会 （北区心の教育推進委員会の活動の一部を継承する位置づけで実施）	
	（1）第１回　情報交換会 日時：７月１７日（火）午後２時～午後４時３０分 会場：北とぴあスカイホール 内容： 〇あいさつ　教育振興部 教育指導課、東京シューレ 〇学習会 「不登校施策の変化とフリースクールの取り組みについて」 講師：文部科学省初等中等教育局児童生徒課長　坪田知広さん 〇フリースクール東京シューレについて（ＶＴＲ上映） 〇地域支援者団体・区等の参加者によるグループワークショップ、公民・民民情報交換会	参加者数 ８５名 民間 ２５団体 私立・大学 ６校 社協行政 ４課 教育委員会委嘱委員９名

		区議会議員9名 都議会議員1名
	（2）第2回　情報交換会 日時：１０月２６日（金）午後2時～午後４時３０分 会場：北とぴあスカイホール 内容： 〇あいさつ　教育指導課、東京シューレ 〇第１回情報交換会の報告 〇学習会　活動紹介とパネルディスカッション 「子どもの多様な育ちをどう地域で支えるか～不登校の子ども・家庭との出会いを通して～」 ＜パネリスト＞ ・奥地圭子　（東京シューレ・登校拒否を考える会） ・佐古恵子さん（滝野川子ども食堂・学習支援、北区子どもの遊ぶ場をつくる会） ・長田真知子さん（でんでん子ども応援隊） ・鈴木夕佳さん（北区教育総合相談センタースクールソーシャルワーカー） 〇地域支援者団体・区等の参加者によるグループワークショップ、公民・民民情報交換会	参加者数 ４８名 １１団体 私立・大学 ３校 社協行政 3課 教育委員会委嘱委員8名
	（３）現場相互訪問見学 〇地域支援者団体に、相互訪問見学受入れの可否を照会するアンケートを実施 〇フリースクール東京シューレへの訪問見学会の実施 日時：３月１２日（火） ※個別に東京成徳大学心理・教育相談センター教員・大学院生の訪問見学受入れ、北区子ども家庭支援センター相談員訪問見学受入れ	３団体計 ８名来訪 ７名来訪
個別事業②	子どもの多様な育ちを考えるシンポジウムの開催 （北区心の教育発表会の活動を継承） 日時：平成３１年3月１日（金）午後２時～４時３０分 会場：北とぴあ つつじホール 〇あいさつ　教育指導課、東京シューレ 〇ミニ講演　「不登校の現状と取組について」（奥地圭子） 〇不登校経験者の若者４名によるシンポジウム	参加者数 ２２５名
個別事業③	公民の情報提供ホームページの作成 情報交換会に基づく支援団体・窓口等のリスト化 http://archive.tokyoshure.jp/kitakunet/	

個別事業④	ホップ・ステップ・ジャンプ教室におけるプログラム提供	
	（１）親の会（相談懇談会）の開催 開催　６月１４日（木）～２月２８日（木）　年間１４回 場所　ホップ・ステップ・ジャンプ教室（午後２時～４時） 岸町ふれあい館（上半期 午後６時～８時、下半期 午後６時３０分～８時３０分） ※６／１４、第１回親の会は不登校経験者が語るシンポジウム ※１１／８、第８回親の会は不登校経験の親が語るシンポジウム	のべ参加者数 48名
	（２）子どものフリースペースの開催 ※（１）親の会と同時開催　年間１４回	のべ参加者数 19名
	（３）ホップ・ステップ・ジャンプ教室登録児童生徒対象の体験型ワークショップ　（年間３回） ①１回目 日時：１０月１８日（木）午後１時３０分～午後３時 会場：ホップ・ステップ・ジャンプ教室 内容：絵画講座キミ子方式（講師：松本一郎さん・キミ子プランドゥ） ②２回目 日時：１１月１５日（木）午後１時３０分～午後３時 会場：ホップ・ステップ・ジャンプ教室 内容：リズムワークショップ・ドラムパフォーマンス（講師：梶原徹也さん・ドラマー、元「ザ・ブルーハーツ」） ③３回目 日時：１２月２１日（金）午後１時３０分～午後３時 会場：ホップ・ステップ・ジャンプ教室 内容：絵画講座キミ子方式（講師：松本一郎さん・キミ子プランドゥ）	参加者数 ①15名 ②11名 ③13名

６．各個別事業実施内容および成果・課題

個別事業①　　子どもの多様な育ちを支える地域支援者団体等の情報交換会

（1）開催　第１回　７月１７日（火）、第２回　１０月２６日（金）

（2）企画・内容について

・　あいさつを教育委員会教育指導課統括指導主事、東京シューレ理事長奥地圭子が行い、協働実施の趣旨やそれぞれの思いを参加者へ伝えた。

・　第１回目は、学習会として、最新の不登校施策に関する情報を直接文科省不登校担当課長によるレクチャー、フリースクールの現場紹介として東京シューレ紹介ＶＴＲ上映を企画した。
・　第２回目は、学習会として、地域で不登校の子どもや家庭と出会っている子ども支援団体と北区スクールソーシャルワーカーに、各現場の取組について報告いただいた上で、パネルディスカッションを企画した。
・　第１回、第２回とも、前半の学習会を踏まえて、グループワークショップ形式で相互に知り合い、情報交換、不登校等への対応における共有や意見交換を企画した。
・　情報交換会後、支援者団体等の相互訪問による研修を企画した。

（3）広報・参加者について

・　第１回、第２回とも内製によるカラーチラシを作成した。
・　民間ＮＰＯ等の地域支援者団体へは、北区ＮＰＯボランティアぷらざ登録の子ども関連団体、北区社会福祉協議会子ども支援担当が取りまとめている子ども支援団体と子ども食堂ネットワーク等、東京シューレが独自に把握しているＮＰＯ等の団体に、東京シューレからチラシ郵送した。
・　区内に設置されている北児童相談所、私立小中学校、大学の子ども・教育・福祉等に関する学部学科センターに東京シューレからチラシ郵送した。
・　北区教育委員会校園長会に対して、主管課と連携して実施に関する説明を行った。
・　主管課から情報提供を得て、子ども家庭支援センター、児童館（子どもセンター）、子ども未来部（子どもの未来応援担当）、中央図書館・地区図書館に、東京シューレからチラシ送付した。
・　主管課は教育委員会に、北区立小学校長会、北区立小学校副校長会、北区立中学校長会、北区立中学校副校長会、区立小学校・中学校主任教諭、小学校ＰＴＡ連合会長、中学校ＰＴＡ連合会長、北区広域スーパーバイザー、北区自治体連合会、北区民営児童委員協議会からなる「情報交換委員」を組織し出席要請を行った。

（4）主な成果

・　幅広い民間ＮＰＯ団体や地域関係者、学校教育関係者、相談機関関係者等の参加を得て相互に知り合うことができた。
・　多くの地域支援者団体等の現場で、不登校の子どもや家庭と出会っている実態と対応への不安や悩みを共有できた。
・　不登校への対応については、国の不登校施策や平成２９年施行の「教育機会確保法」等の最新情報を提供し共有する機会となったことは有意義であり好評であった。
・　東京シューレだけでなく、不登校の親の会、地域の学習支援、子ども食堂・プレーパーク等の区民団体の活動、参加者の関心が高かったスクールソーシ

ャルワーカーについて、パネル発表・ディスカッションによって具体的に学び合う機会となったことは好評であった。

・　相互訪問見学については、見学受入の可否についてアンケート調査を実施し、担当者や見学時期などを明確にすることができた。

・　情報交換会をきっかけに、東京シューレはじめ参加者団体間で、個別に交流や連携した取組が生まれた。

（5）課題

・　年２回のみの開催であったが、もっと回数を多くするとより深い学び合いや情報共有が期待できる一方、大変多くの支援者団体から関心と参加を得ることができたため、日程上、年２回程度の開催が現実的である。

・　情報提供、相互の情報交換、顔合わせの機会にとどまり、連携協働した取組への発展には時間が必要である。

・　民間ＮＰＯ等の地域支援者団体関係者には、北区立小学校の現場の先生方との交流や情報交換を望む声が少なくなかったが、開催設定上、現場教員の参加は難しかった。参加促進する設定を検討する必要がある。

・　１回目においては、議員の参加も多数あり、地域における不登校支援推進には条例なども考えられる等の活発な質問や意見交換があった一方、教育の政治からの独立性の観点から議員参加についての懸念もあった。区民による連携協働の地域づくりの観点や政策提案協働事業という事業の特長を活かす観点から、検討されることが望ましい課題である。

・　支援者団体相互の訪問見学は、時間的な都合から呼びかけに至らず、東京シューレへの訪問見学受入にとどまった。

（6）実施の様子

個別事業②	子どもの多様な学び・育ちを考えるシンポジウム ー不登校経験者の若者たちの声からーの開催

（1）開催：平成３１年３月１日（金）北とぴあ つつじホール

（2）企画・内容について

- 地域・区民に、不登校・フリースクール等の経験者から学ぶことの重要性を伝え、不登校への理解を深め、多様な学び・育ちの重要性の認知を高めること、教育行政における不登校対応・支援施策の変化を知っていただく機会とすること、公民連携での不登校児童・生徒の支援の取組を知っていただく機会とすること等を目的とした。
- 教育委員会と協議の上、北区心の教育発表会の活動を継承するものとして開催することとした。
- あいさつを教育委員会教育指導課統括指導主事、東京シューレ理事長奥地圭子双方から行い、協働開催の趣旨や経緯を参加者へ伝えた。
- シンポジウムに先立ち、近年の不登校の状況や施策の変化について、奥地圭子が東京シューレの立場および文部科学省フリースクール等検討会議委員の立場からミニ講演を行った。（発表資料　末尾添付）
- シンポジウムは下記の４人の不登校経験者の若者に登壇を依頼した。不登校からフリースクール、教育課程特例校へ、その後の進路も学校によらない生き方の者、高校・大学等学校を選択している者など多様さのバランスを配慮して依頼した。

▼一瀬智久（いちのせともひさ）さん

1978 年生まれ。中１より不登校。中２から 18 歳まで東京シューレ王子に在籍。日本でスペイン・バルの先駆けとなった「三鷹バル」を創業、その後も、イタリア料理店「バーカロ・フェッロ」、ロッククライミングジム「三鷹ジム」などを創業する。さらに飲食店の店舗づくりを担う「一瀬工務店」も経営している。

▼涌坂甚平（わくさかじんぺい）さん

１９８９年生まれ、練馬区育ち、不登園から始まり小学校６年間は五月雨登校、中１で完全不登校、中１から高２まで東京シューレ王子中等部・高等部に在籍。

並行して都立桐ヶ丘高校に進学、大学進学し教員免許取得。CM制作会社、球団スタッフ、通信制高校教員を経て、現在、東京シューレスタッフ。２月より世田谷区教育支援センターほっとスクール「希望丘」に勤務。

▼戸田淳介（とだじゅんすけ）さん

１９８４年生まれ、中2から不登校、中卒後の１６歳から東京シューレ新宿に２１歳まで在籍。フリースクールの経験や音楽の経験を活かし、児童館・学童保育臨時職員や東京シューレサポートスタッフを経て、現在、地域福祉サービス事業所「ＮＰＯ法人ハイテンション」職員。２月 23 日放映のＮＨＫ「ウワサの保護者会」に登場。

▼佐々木千夏（ささきちなつ）さん

小学校より不登校、中１の２学期から東京シューレ葛飾中学校に転入。１年のころは少しずつ登校していたが、３年になると、毎日通うようになった。修学旅行や文化祭、旅立ち祭（卒業式）など、ほぼすべての実行委員会に参加。中学卒業後は都立高校へ進学。スクールソーシャルワーカーになりたいと考え、東京学芸大学教育学部で学んでいる。

・　参加者にアンケートを実施し、感想や評価をお願いした。

（3）広報・参加者について

・　カラー外注チラシを作成し、北区立小中学校の全児童生徒に配布（21,000 枚）、情報交換会呼びかけ先団体、子ども家庭支援センター、児童館（子どもセンター）、子ども未来部（子どもの未来応援担当）、中央図書館・地区図書館、北区社会福祉協議会にチラシ配布依頼を行った。
・　東京シューレホームページ、北区教区委員会ホームページに掲載した。
・　北区ニュースに掲載した。
・　東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県の不登校の親の会、フリースクール等、適応指導教室（教育支援センター）に 63 か所にチラシを送付した。
・　30 代、40 代、北区・葛飾区・大田区・新宿区・世田谷区在住の女性を対象に Facebook 広告を掲載した。
・　こくちーず、不登校新聞のイベント掲載サイトに掲載を依頼した。
・　北区内全自治会町会掲示板にチラシ掲示を依頼した。
・　参加者状況・アンケート回収状況

事前申込者数	１８９名（主管課・東京シューレ関係者除く）
当日来場者数	２２５名（保護者とともに来場し受付をしていないお子さんがこの他に１０名ほどいた）
内訳	事前申込者参加　１５２人 、当日参加　３４人、北区来賓　１４人 、運営側：区職員・区教委職員１０人 、東京シューレスタッフ等１１人、シンポジスト４人
アンケート回収	１２５名（回収率５５．６％）

（4）主な成果

・　平日日中の開催であったが、目標１００名を大きく超える来場を得た。

・　アンケート回答の概要（詳細データは末尾添付）

【参加者の立場】

保護者／その他家族５８．１％、子ども支援・相談等関係者１２．９％、
学校関係者（教員／ＳＣ／ＳＳＷ）１０．５％、学生／大学院生８．９％

【住まい】

北区内３７．９％、北区外６２．１％

【イベントを何で知ったか】

東京シューレからの案内２６．８％、学校からのチラシ２３．６％、
ＳＳＮ（ツイッター／Facebook）１７．９％、
北区教育委員会（教育相談／ＳＣ／ＳＳＷ）１７．１％

【お子さんについて】

小学生４６．１％、中学生３４．８％、高校生年齢１３．５％、就学前５．６％
現在不登校３９．３％、かつて不登校１４．６％、不登校経験なし２３．６％

【内容への評価】

大変よかった７３．７％、よかった２１．２％、ある程度よかった４．２％
あまりよくなかった０．８％、まったくよくなかった０％

・　シンポジストに対して、会場から保護者の立場、支援者の立場から率直な質問が交わされた。

（5）課題

・　当事者の声をより多く伝えていく意義・必要性をより強く感じた。

・　学校教員に知っていただきたい情報であったが、教員研修として設定できなかったため教員参加が少なく残念であった。

（6）実施のようす

個別事業③　　公民の情報提供ホームページの作成

（1）作成内容・方法

- 情報交換会の成果をもとに、区民に不登校児童・生徒の支援やフリースクール等の情報を提供するウェブサイトを作成し、情報提供のプラットフォームを目指した。
- 団体ホームページ間の相互リンク、北区や教育委員会ホームページとのリンクも進めることを目指した。
- 個別事業②シンポジウムの内容掲載をする情報交換会参加支援者団体を対象に、アンケートを実施し掲載了承いただいたところを掲載した。
- 外注して作成した。

（2）公開アドレス　http://archive.tokyoshure.jp/kitakunet/

（3）主な成果

・　掲載カテゴリーとして、子ども支援者団体と一覧のほか、不登校経験者の若者によるシンポジウム、保護者によるシンポジウムが掲載できるようにした

（4）課題

・　掲載団体情報を充実していく必要があり、意見を伺いつつ随時改善対応していくこととしている。

・　教育委員会や行政の窓口も掲載する必要がある。

・　シンポジウムの内容掲載も充実させていく必要がある。

個別事業④　　ホップ・ステップ・ジャンプ教室におけるプログラム提供

（1）企画・内容について

・　従来の適応指導教室につながりにくい、引きこもりの傾向がある不登校の子どもとその保護者とつながり孤立を軽減すること、保護者の悩みや辛さを共有するとともに親の会の多くの経験・情報を伝え、保護者どうしが学び合い、保護者自信が安心できることを目指した。

・　親の会と子どものフリースペースを同時開催することにより、引きこもりがちな不登校の子どもが安心して家庭から出るきっかけ、機会とすることを目指した。

・　適応指導教室における保護者や児童生徒への支援メニューの一つとなることを目指した。

・　ホップ・ステップ・ジャンプ教室のプログラムに、フリースクールで実施している講座やワークショップを提供し、子どもたちが楽しんで取り組めるようにした。

（2）開催実施

①　親の会（相談懇談会）と子どもフリースペースの開催および参加者数

回	日にち	時間	会場	保護者参加	子ども参加
第 1 回	6 月 14 日	夜	岸町ふれあい館	2	
第 2 回	6 月 26 日	午後	ホップ・ステップ・ジャンプ教室	3	1
第 3 回	7 月 12 日	夜	岸町ふれあい館	3	
第 4 回	9 月 13 日	夜	岸町ふれあい館	2	1
第 5 回	9 月 25 日	午後	ホップ・ステップ・ジャンプ教室	2	
第 6 回	10 月 11 日	夜	岸町ふれあい館	3	2
第 7 回	10 月 23 日	午後	ホップ・ステップ・ジャンプ教室	3	
第 8 回	11 月 8 日	夜	岸町ふれあい館	4	1
第 9 回	11 月 27 日	午後	ホップ・ステップ・ジャンプ教室	5	3
第 10 回	12 月 13 日	夜	岸町ふれあい館	1	1
第 11 回	1 月 10 日	夜	岸町ふれあい館	5	1
第 12 回	1 月 22 日	午後	ホップ・ステップ・ジャンプ教室	5	5
第 13 回	2 月 14 日	夜	岸町ふれあい館	5	1
第 14 回	2 月 26 日	午後	ホップ・ステップ・ジャンプ教室	5	3
			合計	のべ 48	のべ 19

・　第１回は、不登校経験者の若者４人によるシンポジウムを実施した。

・　第８回は、不登校経験者の保護者４人によるシンポジウムを実施した。

②　ホップ・ステップ・ジャンプ教室への講座・体験型ワークショップの提供

日時：１０月１８日（木）午後１時３０分～午後３時

会場：ホップ・ステップ・ジャンプ教室ホームルーム

内容：絵画講座キミ子方式（講師：松本一郎さん・キミ子プランドゥ）

日時：１１月１５日（木）午後１時３０分～午後３時

会場：ホップ・ステップ・ジャンプ教室体育館

内容：リズムワークショップ・ドラムパフォーマンス（講師：梶原徹也さん・ドラマー、元「ザ・ブルーハーツ」）

日時：１２月２１日（金）午後１時３０分～午後３時

会場：ホップ・ステップ・ジャンプ教室ホームルーム

内容：絵画講座キミ子方式（講師：松本一郎さん・キミ子プランドゥ）

（3）広報・参加者について

①　親の会・フリースペース

・　対象を北区立小中学校児童生徒に限定したいとの主管課の意向があり、ホームページ等への掲載は行わず、学校・クラス担任、教育相談、ＳＣ、ＳＳＷから、該当すると想定した保護者・家庭に直接手渡しする方法をとり、原則事前申込制とし、教育総合相談センターの電話・ＦＡＸに限定して受付を行った。

・　次の４種類のチラシを作成した。

【チラシ１】６月１４日　不登校経験者によるシンポジウム案内

【チラシ２】前半日程記載の親の会・フリースペース案内

【チラシ３】１１月８日　不登校経験の保護者によるシンポジウム案内

【チラシ４】後半日程記載の親の会・フリースペース案内

・　チラシは、【大封筒】小学校・中学校ごとに校長宛依頼状＞【小封筒】各学年学級ごとに担任宛依頼状＞【個別封筒】保護者宛案内状とチラシのセットを準備し学校交換便にて送付、保護者・家庭への配布は、担任等に委ねた。

・　参加者人数等は上述の一覧を参照

②　ホップ・ステップ・ジャンプ教室への講座・体験型ワークショップ

・　対象は北区立小中学校在籍の不登校の児童生徒とするが、ホップにつながっていない子どもも体験できるよう対象を広げた。

・　チラシを１種類作り、親の会・フリースペースのチラシと同封して配布をお願いした。

・　各回の参加者は１０数名あり、当日通所していた児童生徒は全員が参加した（参加しない場合は帰宅）。

・　保護者同伴で参加する児童生徒もあった。

（4）主な成果

・　親の会は参加される方は継続していただける方が多く、大変喜ばれた。子どもスペースも利用した子どもたちはゲームで交流したり、絵を描いたり、レジンでモノ作りをしたり大変喜んでもらえた。

・　親の会では、生活リズム、ゲームやネット、学習への不安、きょうだい関係、親子関係、祖父母との関係、自己否定感やひけ目、睡眠や食事、子どもの不安や神経症的な行動、学校や先生とのつきあい、他の保護者とのつきあいなど、多岐にわたったが、共通して理解し学び合える内容が多く喜ばれた。

・　シンポジウムは、保護者だけでなく主管課、地域振興課の参加や学生の参加もあった。

・　親の会からホップ・ステップ・ジャンプ教室への体験申込につながったケースもあり、きっかけとなった。

・　親のシンポジウムではアンケートを実施し、多くの賛同的な感想をたくさんいただいた。

・　講座・ワークショップにおいては第２回、第３回でアンケートを実施し、こちらも賛同的な感想を多くいただいた。

・　アンケート結果

	大変参考になった	参考になった	ある程度参考になった	あまり参考にならなかった	まったく参考にならなかった
11/8 親シンポジウム	3				

	とてもよかった	けっこうよかった	ふつうによかった	あまりよくなかった	無記入
11/15 リズム WS	7	4			1
12/絵画講座	3	2	3		1

【親シンポジウム感想】

・　皆さんの体験談を聞いて、４年間家での引きこもり、小学生から不登校…何かのきっかけで過去大変な時期があっても自分から動いている。家に引きこもっていれば、人とのつながりがなければこのまま？という不安が親はあります。これからはあせらず、子どもの成長を願いたいと思います。
・　子どもの成長を信じることが大事だとあらためて思いました。
・　先が見えなくて不安な気持ちが楽になりました。（自分一人で何とか戦い抜いているような気がしていたので）

【リズムワークショップ感想】

・　トレイン・トレインがとてもいい歌でした。
・　母がとてもよろこんでいました。こんなによろこんでいるのはひさしぶりに見ました。
・　たいこつくるのが楽しかった。
・　（ザ・ブルーハーツの）映像があってよかったです。「リンダリンダ」など知っている曲だったので驚きました。不登校を経験した方で、少しでも共感できるところがあって嬉しかったです。
・　テスト期間じゃなければ、（他の通所生も）皆いてもっと楽しかったし、集中できたかもしれないと思いました。いつかまた聞けたらいいなと思いました。
・　幼い頃から聞き、見てきた映像や楽曲をまた見れて嬉しかったです。お話を聞いてから演奏を聞くと「本当に心から音楽が好きなんだ」と感じました。私にこの素晴らしいアーティストを教えてくれた亡き母へ伝えたいと思います。
・　小さい時からバンドの曲を聞くのが家族ぐるみで好きでした。私にとって音楽、バンドはほとんど人生と一緒のようなもので、こうしてワークショップに参加できたことがとてもうれしいです。梶原さんの言葉通り、楽しんで生きたいなぁと思いました。
・　わからない映像もあったけど楽しかったです。
・　また聞きたいです。
・　同じ不登校で梶原徹也さんのお話し、とても共感できる所がありました。映像

を見て全部の曲を知っていて、すごく有名な人だとわかりました。
・ すごく楽しかったです。最後の梶原さんの演奏がすごかったです。また聴きたいです。
・ 不登校だった梶原さんがパンクと出会い、もうこれしかないと思ったのは、すごく良いことだと思いました。
・ 様々なところを速くたたくパフォーマンスは、すごい技術力があることが伝わり、すごいと思いました。

【絵画講座キミ子方感想】

・ いつもとは違った絵の描き方で、本当に帽子を編んでいるような感覚で楽しむことができてよかったです。先生の話で少し気が楽になったような気がしました。
・ 最後、あせってしまってモヤモヤ勝手にしてしまいました。先生の話を聞いて少し気持ちが明るくなったような気がします。またやりたいと思いました。今度は焦らずにやりたいです。
・ 今回２回目でやることはわかっていて、前回よりも早くできたです。
・ 絵を書くのはにがてだったけど、たのしかった。
・ 絵がうまくかけてよかったです。
・ いつも絵をかくときよりよかった。
・ とても楽しかったです。
・ 正直に書くととても楽しかった。絵へ苦手意識があったがイメージがいっしゅんでふきとんでしまった。はじめて絵を書いてて楽しいと思った

（5）課題

・ 親の会・フリースペースへは、情報がもっと伝われば参加者が増えると考えられる。東京シューレのフリースクール説明会や親の会を毎月開催しているが、北区立小中学校在籍であるが本事業の情報が届いていないケースが多くあった。配布の工夫が必要である。
・ ホームページでの広報、ホームページやメールでの申し込みができることが望ましい。
・ 北区在住の私立学校の不登校児童生徒を対象とするかどうかの検討協議を行ったが、教育委員会と私学との関係や私立の児童生徒がホップ教室を希望した場合に責任をもって受け入れができないのではないかといった点で、配慮すべきことや十分な受け入れ体制整備が必要とのことから、受け入れに至らなかった。この点は、課題として共有することができたため検討が進むことが望まれる。

（5）実施の様子

親の会での経験者シンポジウム

子どもフリースペース

絵画講座キミ子方式

リズムワークショップ

7．事業の決算額

区　　分	項　　目	金　　額（円）
収入	北区負担金	2,560,000
	団体負担金	98,751
	収入計	2,658,751
支出	情報交換会	158,592
	シンポジウム	271,851
	Web サイト	496,800
	ホップ・ステップ・ジャンプフリースペース設置費	430,354
	ワークショップ運営費	157,880
	人件費（スタッフ・事務）	863,500
	交通費（スタッフ・事務）	14,000
	運営事務諸経費（含保険料）	258,667
	対象経費計	2,651,644
	対象外経費	7,107
	支出計	2,658,751

8．事業の全体的な評価・課題

（1）連携協働の効果・成果について

事業計画において協働の効果・事業の効果として目指したことは大いに実現できた。

・　公民がそれぞれの実績や強みを寄せ合うことにより、支援できる子ども・家庭を広げることができた。またそれぞれの不足部分をカバーし合える連携の土台ができた（親の会や当事者の声の発信、情報交換会など）。

・　提案団体が企画実施することにより、子どもの支援に関する民間 NPO 等の情報収集と情報交換が進みやすくなった（教育委員会から学校への発信、教育委員会以外の行政窓口、私立学校へのアプローチ、区民団体へのアプローチ、ホームページ作成等）。

・　子どもの支援に関する民間 NPO 等にとっては、行政と連携することにより、活動の信頼性が高まった。東京シューレはもちろんであるが、教育委員会が認知していない民間ＮＰＯ支援者団体が多数あり、まずは認知し合えたことが成果であった。

・　教育機会確保法はじめ国は不登校施策における公民連携を推進しているが、本事業は全国的にも先進事例として評価できるものであった（文科省有識者会議や文科省調査研究事業等における評価）。

（2）課題

- 情報交換の機会は継続し、情報更新していくことが大事である。提案団体としては、本事業期間内にその土台を形成したい。
- ホームページによる情報提供は、コンテンツが発展途上である。随時、改善していく予定である。
- 主管課である教育委員会においては、本事業の関係者が多く予想以上に調整の負担が大きかったと思われる。それに伴って、提案団体としては、チラシの配布方法や種類の複雑さ、作業量の増加、広報方法の制限が発生したが、極力柔軟に対応することを心掛けた。また、主管課と各小中学校、ホップ教室との関係や調整のプロセス、配慮のポイント等について理解や把握が難しかったが、会議や作業を共に重ねることで理解できていったと考えている。
- 提案団体としても、事業内容が多くスケジュール管理や準備に十分な時間をかけられない状況も生じたため、チラシや文書の確認など急な対応を求めることもあったが、主管課にも柔軟に対応いただけた。
- チラシ作成や広報など、徐々に提案団体の裁量に委ねていただく部分を明確にするなど期待するところである。
- 事業の対象者である子ども・保護者の利益を共有して取り組んでいくことで改善していけることは多いと考えている。
- 教育委員会とは密接な連携ができてきているが、教員の皆さんと出会い学び合う機会がもっと必要であり重要である。

９．平成３１年度事業の取組

個別の４事業を基本的に継続実施するが、以下の点に重点を置いて計画実施する。

- 親の会・フリースペースの活動は、継続により効果が出てくるため、地道に回を重ね定着させていく。
- 同じく情報交換も継続性を大事にする
- 情報交換会の１回目を協議の結果、区立小中学校の夏休み冒頭に開催し教員研修と位置づけていただくことができた。現場の先生方に不登校施策の状況や不登校当事者の情報を共有していただく機会としたい。
- 不登校経験者によるシンポジウムを含む「不登校相談会・進路相談会」を９月に開催し、より求められる情報の提供に努めたい。

１０．　添付資料

（1）配布チラシ

①　第１回情報交換会

②　第２回情報交換会

③　親の会・フリースペース（６月１４日　不登校経験者シンポジウム）

④　親の会・フリースペース（上半期）

⑤　親の会フリースペース（１１月８日　親の体験談シンポジウム

⑥　親の会・フリースペース（下半期）

⑦　３月１日　子どもの多様な学び・育ちを考えるシンポジウム

（2）３月１日シンポジウム　奥地圭子ミニ講演　パワーポイント資料

（3）３月１日シンポジウム来場者アンケート集計

平成30年度　北区政策提案協働事業

第１回
北区子どもの多様な育ちを支える
地域支援者団体等 情報交換会

協働　北区教育委員会　　NPO法人東京シューレ

ご参加の可否を
7/2(月)までに
ご連絡ください。

不登校を地域で支えるために、ご協力ください

公民連携 ＋ 民民連携

子どもをめぐる困難や課題が、“不登校”というかたちで現れることが少なくありません。どのように対応し、どのように支えていけばよいのでしょうか。「教育機会確保法」施行により、学校を休むこと、フリースクールや家庭など学校以外の学びも重要であること、民間との密接な連携によって支援していくことなど、不登校施策も子どもの多様な育ちを支援していくよう変化してきています。

学校・行政、地域、NPO団体など、公民の支援者団体・機関が、連携する土台づくりとして、学習会と情報交換会を開催いたします。

日時　**平成30年 7月17日(火) 14時～16時30分**　受付13:30

会場　**北とぴあ14階 スカイホール**（北区王子1-11-1）

対象　北区教育委員会、区立小中学校、PTA、都立・私立学校、親の会・フリースクール・居場所、発達障がい・外国ルーツ・子ども食堂などの子ども支援NPO、自治会、民生・児童委員、社会福祉協議会、心理・医療・相談・大学等の専門機関、子ども家庭支援センター、児童相談所など

内容　あいさつ　北区教育委員会、東京シューレ
学習会「不登校施策の変化とフリースクールの取組について（仮題）」
（文部科学省初等中等教育局児童生徒課、東京シューレ）
情報交換・ディスカッション

※ 年間2回開催　第2回は10月26日（金）予定です。

参加申込・お問い合わせ

ＮＰＯ法人東京シューレ
裏面ＦＡＸ送信票もご利用ください。

TEL 03-5993-3135
FAX 03-5993-3137
メール renkei@shure.or.jp
WEB http://www.shure.or.jp/kitaku-renkei

申込フォーム

FAX送信 7月2日まで	03－5993－3137 NPO法人東京シューレ 行 7/17(火) 第1回 北区子どもの多様な育ちを支える 情報交換会
いずれかに〇をお付けください。	ご参加 ・ ご欠席
貴団体・機関等名称	
ふりがな	
参加者のお名前	
役職（あれば）	
ご連絡先	
TEL	
FAX	
メール	
ご連絡・ご質問等ございましたらご記入ください。	

平成30年度　北区政策提案協働事業

第２回
北区子どもの多様な育ちを支える
地域支援者団体等 情報交換会

協働　北区教育委員会　　NPO法人東京シューレ

ご参加の可否を
10/22(月)までに
ご連絡ください。

不登校を地域で支えるために、ご協力ください

公民連携 ＋ 民民連携

7月の第1回情報交換会には多くのみなさまにご参加いただきました。「教育機会確保法」施行により、学校を休むこと、フリースクールや家庭など学校以外の学びも重要であること、民間との密接な連携によって支援していくことなど、国の不登校施策が大きく変わってきていることを知りました。また、地域、学校・行政・子ども団体・NPO・大学・機関などが出会うことによって、子どもの多様な育ちを連携して支えていく可能性を考え合うスタートとなりました。

第2回は、いくつかの団体による活動発表とパネルディスカッション、グループ情報交換を行います。ぜひ、ご参加をお願いいたします。

日時　**平成30年10月26日(金) 14時～16時30分** 開場13時30分

会場　**北とぴあ14階 スカイホール**（北区王子1-11-1）

対象　北区教育委員会、区立小中学校、PTA、都立・私立学校、親の会・フリースクール・居場所、発達障がい・外国ルーツ・子ども食堂などの子ども支援NPO、自治会、民生・児童委員、社会福祉協議会、心理・医療・相談・大学等の専門機関、子ども家庭支援センター、児童相談所など

内容　あいさつ　北区教育委員会、東京シューレ
≪第1回情報交換会の報告≫
≪学習会≫　活動紹介とパネルディスカッション
「子どもの多様な育ちをどう地域で支えるか ～不登校の子ども・家庭との出会いを通して～ 」
（登壇予定：不登校の親の会、子ども食堂・学習支援、北区スクールソーシャルワーカーなど）
≪情報交換・ディスカッション≫

参加申込・お問い合わせ

ＮＰＯ法人東京シューレ
裏面ＦＡＸ送信票もご利用ください。

TEL 03-5993-3135
FAX 03-5993-3137
メール renkei@shure.or.jp
WEB http://www.shure.or.jp/kitaku-renkei

申込フォーム

子どもが安心して学び育つために。

おうちのかたへ

日ごろ、お子さんの過ごし方、学習のこと、進路のこと、学校とのつきあい…、
気になること、迷うこと、悩むこと、たくさんあるのではないでしょうか。
経験者の声を聞いてみませんか？　ぜひ、お気軽にご相談ください。
子どものフリースペースも同時開設しています。おしゃべり、ゲーム、イラストなど一緒にできます。
お子さんとご一緒の来場もお待ちしています。

第１回親の会

不登校経験者が語る シンポジウム

6/14(木) 18:00-20:00

岸町ふれあい館

（第２集会室、和室）

※要事前申込み…原則として区立小・中学校に在籍する児童・生徒及びその保護者の方が対象になります。

【申込み先】北区教育振興部教育総合相談センター　Tel 03-3908-9269　FAX 03-3908-1257

【実施・問合せ先】NPO法人 東京シューレ　Tel 03-5993-3135　Mail renkei@shure.or.jp

※この事業は、平成30年度北区政策提案協働事業「北区子どもの多様な育ちを支える地域連携事業」の一環として行うものです。

6/14 第１回親の会　申込書　FAX 03-3908-1257

※申込みの個人情報は、北区教育委員会に直接届きます。
NPO法人東京シューレには提供されません。

お子様のお名前		学校名	
参加される方に〇をつけて下さい	保護者のみ参加　　子どもと一緒に参加		
予定変更の際の連絡先	（　　―　　―　　）		

※夜間（木曜日）と小学生のお子さんの参加は、保護者の方が必ずご一緒にご参加ください。
※緊急連絡先は、非常の際にのみ使用します。終了後、教育委員会が責任をもって処分します。

参加費：無料

申し込み方法：事前に以下 ① ～ ②の

いずれかの方法でお申込みください。

① 電話　　03-3908-9269

② FAX　　03-3908-1257

（上の申込書にご記入の上、送信してください）

フリースペースのイメージです

子どもが安心して学び育つために
２つの活動が始まります。

親の会
（保護者同士の相談懇談会）

子どもの
フリースペース

おうちのかたへ

北区教育委員会は不登校等のお子さんのために教育相談やホップ・ステップ・ジャンプ教室で支援を行っています。このたび、NPO法人東京シューレと北区教育委員会は、協働して**親の会**と**子どものフリースペース**の２つの活動を始めます。日ごろ、お子さんの過ごし方、学習のこと、進路のこと、学校とのつきあい…、気になること、迷うこと、悩むこと、たくさんあるのではないでしょうか。経験者の声を聞いてみませんか？他のご家庭では、どうされているのでしょう。NPO法人東京シューレは、親の会や相談会、子どもの居場所・フリースクールを長年運営してきました。多くの親の皆さんの経験から学んでみませんか。きっと、ほっとできたり、少し安心できたり、お子さんの今を受け止められるようになったりすると思います。ぜひ、お気軽にご相談ください。
子どものフリースペースも同時開設していますので、お子さんとご一緒の来場もお待ちしています。

6/14（木）	18:00 - 20:00	岸町ふれあい館（第２集会室、和室）
6/26（火）	14:00 - 16:00	ホップ・ステップ・ジャンプ教室〔北区役所滝野川分庁舎〕
7/12（木）	18:00 - 20:00	岸町ふれあい館
9/13（木）	18:00 - 20:00	岸町ふれあい館
9/25（火）	14:00 - 16:00	ホップ・ステップ・ジャンプ教室〔北区役所滝野川分庁舎〕
10/11（木）	18:00 - 20:00	岸町ふれあい館
10/23（火）	14:00 - 16:00	ホップ・ステップ・ジャンプ教室〔北区役所滝野川分庁舎〕
11/8（木）	18:00 - 20:00	岸町ふれあい館

6/14
第１回親の会の内容
【不登校経験者が語る シンポジウム】

11/8
第８回親の会の内容
【親が語る わが子の不登校 シンポジウム】

※要事前申込み…原則として区立小・中学校に在籍する児童・生徒及びその保護者の方が対象になります。
※予定している会場が変わった場合は、別途お知らせします。

【申込み先】北区教育振興部教育総合相談センター　Tel 03-3908-9269　FAX 03-3908-1257

【実施・問合せ先】NPO法人 東京シューレ　Tel 03-5993-3135　Mail renkei@shure.or.jp

※この事業は、平成30年度北区政策提案協働事業「北区子どもの多様な育ちを支える地域連携事業」の一環として行うものです。

子どもが安心して学び育つために

おうちのかたへ

日ごろ、お子さんの過ごし方、学習のこと、進路のこと、
学校とのつきあい…、気になること、迷うこと、悩むこと、
たくさんあるのではないでしょうか。
経験者の声を聞いてみませんか？
ぜひ、お気軽にご参加ください。

子どもの**フリースペース**も同時開設しています。
おしゃべり、ゲーム、イラストなど一緒にできます。
お子さんとご一緒の来場もお待ちしています。

第８回 親の会

親が語る わが子の不登校 シンポジウム

11/8(木) 18:00-20:00
岸町ふれあい館 ３F（第５集会室）

第９回 親の会

（保護者同士の相談懇談会）

11/27(火) 14:00-16:00
ホップ・ステップ・ジャンプ教室
（北区役所滝野川分庁舎）

◆申込み先　北区教育委員会 教育総合相談センター　Tel: 03-3908-9269　FAX: 03-3908-1257
◆実施・問合せ先　NPO法人 東京シューレ　Tel: 03-5993-3135　Mail: renkei@shure.or.jp

※要事前申込み…原則として区立小・中学校に在籍する児童・生徒及びその保護者の方が対象になります
※この事業は、平成30年度北区政策提案協働事業「北区子どもの多様な育ちを支える地域連携事業」の一環として行うものです

子どもが安心して学び育つために
２つの活動が始まりました

親の会
（保護者同士の相談懇談会）

子どもの
フリースペース

おうちのかたへ

北区教育委員会は不登校等のお子さんのために教育相談やホップ・ステップ・ジャンプ教室で支援を行っています。今年度、NPO法人東京シューレと北区教育委員会は、**親の会**と**子どものフリースペース**の２つの活動を始めています。親の会では、お子さんの生活リズム、ゲームやスマホ、きょうだい関係、学習、進路、学校とのつきあい…など、気になること、迷うこと、悩むこと、いろいろな話題が出ています。他のご家庭では、どうされているのでしょう。NPO法人東京シューレは、親の会や相談会、子どもの居場所・フリースクールを長年運営してきました。多くの親の皆さんの経験から学んでみませんか。きっと、ほっとできたり、少し安心できたり、お子さんの今を受け止められるようになったりすると思います。子どものフリースペースも同時開設しています。おしゃべり、ゲーム、イラスト、ものづくりなどをしています。ぜひ、お子様とご一緒にお気軽にお越しください。

スケジュール

11/8（木）	18:00 - 20:00	岸町ふれあい館
11/27（火）	14:00 - 16:00	ホップ・ステップ・ジャンプ教室〔北区役所滝野川分庁舎〕
12/13（木）	18:30 - 20:30	岸町ふれあい館
1/10（木）	18:30 - 20:30	岸町ふれあい館
1/22（火）	14:00 - 16:00	ホップ・ステップ・ジャンプ教室〔北区役所滝野川分庁舎〕
2/14（木）	18:30 - 20:30	岸町ふれあい館
2/26（火）	14:00 - 16:00	ホップ・ステップ・ジャンプ教室〔北区役所滝野川分庁舎〕

※予定している会場が変わった場合は、別途お知らせします

◆申込み先　北区教育委員会 教育総合相談センター　Tel: 03-3908-9269　Fax: 03-3908-1257
◆実施・問合せ先　NPO法人 東京シューレ　Tel: 03-5993-3135　Mail: renkei@shure.or.jp
※要事前申込み…原則として区立小・中学校に在籍する児童・生徒及びその保護者の方が対象になります
※この事業は、平成30年度北区政策提案協働事業「北区子どもの多様な育ちを支える地域連携事業」の一環として行うものです

平成30年度　北区政策提案協働事業　北区子どもの多様な育ちを支える地域連携事業

子どもの多様な学び・育ちを考えるシンポジウム

―― 不登校経験者の若者たちの声から

2019.3.1 金 14:30-16:30

@北とぴあ つつじホール

開催にあたって

不登校の子どもは小・中・高で全国約20万人。中学生においては約30人に1人が不登校です。これまで、いかにして学校へ戻れるか、戻せるか、本人・保護者、先生方・学校、地域など、多くの関係者が苦心してきました。2017年に施行された「教育機会確保法」では、子どもの最善の利益の立場にたちながら、休みの必要性や学校外で学ぶ重要性も明記され、公民連携が謳われています。

NPO法人東京シューレは、北区で不登校の親の会やフリースクールを34年間続けてきており、今年度から北区教育委員会と協働し、北区政策提案協働事業「子どもの多様な育ちを支える地域連携事業」を進めてきました。

この度、不登校を経験した４人の若者によるシンポジウムを開催します。当事者の生の声を聞き、不登校であっても、多様な学び・多様な育ちのあり方があることを知っていただけるよい機会です。どなたでもご参加いただけますので、ぜひお越しください。

対象

小中学生、高校生などの保護者・ご家族、不登校のお子さん・保護者の方、学校関係者、地域関係者、一般の方どなたでも

- 本シンポジウムは、北区「心の教育発表会」を継承する事業として実施します
- 個人情報は、本事業の目的以外には使用いたしません

協働　北区教育委員会・NPO法人 東京シューレ

申込　東京シューレ事務局　Tel: **03-5993-3135**　Fax: **03-5993-3137**
Mail: **renkei@shure.or.jp**　Web: **www.shure.or.jp/sympo0301/**

申込フォーム

平成30年度北区政策提案協働事業

子どもの多様な学び・育ちを考えるシンポジウム

（心の教育発表会）

協働　北区教育委員会・NPO法人東京シューレ

2019年3月1日　北とぴあ　つつじホール

1

ごあいさつ

北区教育委員会
教育振興部教育指導課統括指導主事
水浦　茂樹

NPO法人東京シューレ
理事長
奥地　圭子

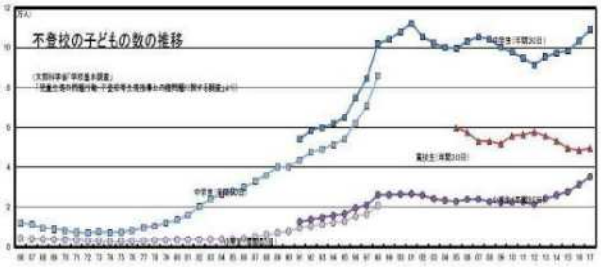
2

ミニ講演

不登校の現状と取り組みについて

NPO法人東京シューレ理事長
文部科学省フリースクール等検討会議委員
奥地圭子

3



4

ごく最近のデータ（小中学生）

2018年度発表　14万4,000人
2017年度発表　13万4,000人
1年で1万人増えた

小	35,032人
中	108,999人
高	49,643人
計	193,674人

※平成29年度文科省調査

5

小中欠席90日以上の不登校

90日以上欠席で11日以上出席・・・67917人

90日以上欠席で1～10日出席・・・・10837人

90日以上欠席で出席0日・・・・・・・・・5237人

計　83991人

これは不登校全体の58.3%↑

6

※平成29年度文科省調査

これまでの不登校への対応

◆国の不登校政策　学校復帰が前提

◆学　校　登校催促、登校刺激

◆家　庭　「学校へ行って欲しい」
行かせるためのあれこれ

◆社　会　「学校へ行って当たり前」

7

この問題は「子ども」の立場から考えるのが大切

①学校と距離をとる子の原因は様々

いじめ
生徒どうしの人間関係
疲れた・・・
集団が苦手
学習についていけない
指導のやり方が合わない
教師不信
家庭問題
傷つく事件
・・・などなど

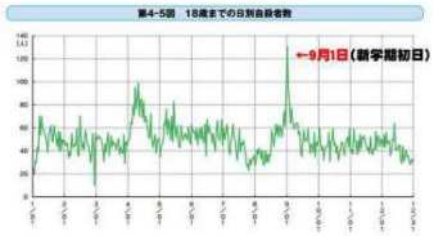
8

②学校と距離をとっているのに学校復帰を求められるのは辛い

・わかっているけど、できない。
・わかってくれない孤立感、不信感
・登校すべきなのにできない自責感
・自信喪失、罪悪感
・無気力、存在を消したい
→追いつめられる

9

③長期休み明け自殺はなぜ起こるか



※内閣府調査

10

④「登校すべき、でもできない」状態の中で出てくること

1. 身体症状　頭痛・腹痛・吐き気・じんましん
パニック障害・目が見えない
足が痛い・胸が痛い　など
2. 精神症状　不眠・イライラ・鬱・家庭内暴力
神経症・リストカット・摂食障害　など
3. 生活状態　昼夜逆転・ゲームやスマホ漬け・
生活習慣の乱れ　など

11

対応としては

・「学校へ行って当然」ではなく
一人ひとり異なることへの理解

・学校へ行けるように直すではなく
「受け止める」発想へ

・その子の気持ちやニーズに応じて
成長支援していく大切さ

12

公的機関
ーさまざまな取り組みー

・スクールカウンセラー
・スクールソーシャルワーカー
・相談室
・保健室登校
・適応指導教室（教育支援センター）
・担任加配教室による取り組み、
通級、巡回指導　等

13

民間の活動　その1
「不登校の子をもつ親の会」

・北区には「登校拒否を考える会」満35年（王子）
・年齢や地域に関係なく、誰でも参加可能
・孤立しない
・情報が得られる
・学び合える
・楽になる　→子どもに良い影響

14

民間の活動その2
「学校外の居場所・フリースクール」

・NPO法人も多い
・全国に300～400
・北区には「東京シューレ」（開設34年）
・学校の出席扱いとなる
・通学定期券も適用される

15

北区で育った東京シューレ

はじまり　1985年
東十条雑居ビルの一室で

あれから
34年

現在　2019年
多様な学びの場ができています

16

フリースクール 東京シューレ

王子(90名)

流山(20名)

大田(25名)※2018年～

新宿(40名)

17

フリースクール以外の活動も

在宅成長支援　**ホームシューレ**(全国170家庭)

若者で運営　**シューレ大学**

卒業資格取得　**高校コース**(札幌自由が丘学園三和高等学校と提携)
フリースクール・コース(フリースクールに通いながら)
ホームシューレ・コース(ホームエデュケーションしながら)

18

公民連携

★廃校を借りて、不登校支援の私立中学校開校

学校法人 東京シューレ学園
東京シューレ葛飾中学校

★北区との連携事業(先述)

★世田谷区との委託事業
公設民営の「ほっとスクール」

19

東京シューレの 卒業生＋現役の人数

フリースクール	1600人
ホームシューレ	2000人
シューレ大学	150人
葛飾中学校	600人
合　計	約4350人

それぞれの歩みをしています

20

国の最近の変化

2014年　安倍首相東京シューレ来訪
「学校外で学ぶ子への支援を考えます」と

2015年　フリースクール等検討会議
不登校に関する調査研究協力者会議
フリースクール調査

2016年　全国通知「不登校は問題行動ではない」

21

学習指導要領改訂版にも

・問題行動ではない
・根強い偏見を払拭し、子ども一人ひとり
の状況に応じてサポート

22

変化の背景に「教育機会確保法※」がある

※義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律

「不登校支援法」である。75年ぶりに学校外も認められた。

基本理念
1　全ての子が豊かで安心できる学校環境の確保
2　個々の不登校の状況に応じた支援
3　不登校の子が安心していられる学校環境の整備
4　意見を尊重しつつ、自立支援をすること
5　密接な公民連携のもとに行う

23

教育機会確保法では

第13条　休みの必要性　学校外の学びの重要性
第6条　財政・措置に努めること
第3条　公民連携を進めること

◎公民連携の一例
「北区子どもの多様な育ちを支える地域連携事業」
東京シューレが北区政策提案協働事業に手を挙げ、
公募で決まったものです。

24

北区子どもの多様な育ちを支える地域連携事業

①地域の情報交流会（年2回）
子ども関係の団体が集まりました。
7月・・・文科省講演「不登校政策の変化」・
グループディスカッション
10月・・・親の会、学習支援、子ども食堂、SSWなど4者の
シンポジウム・ 全体交流

25

北区子どもの多様な育ちを支える地域連携事業

②北区内子ども支援団体の情報提供
HPで一覧を見られるようにする（作成中）

③教育講演会を区民対象に開催
（心の教育発表会を兼ねて）
・本日3月1日
・不登校当事者のシンポジウム

26

北区子どもの多様な育ちを支える地域連携事業

④ホップ・ステップ・ジャンプ教室に関する連携
★ホップ・ステップ・ジャンプ教室へのプログラムの提供
（打楽器講座・キミ子方式）

★親の会の開催（月2回） 1回は昼、1回は夜に開催。
フリースペースも同時開催（今、家にいる子の支援）

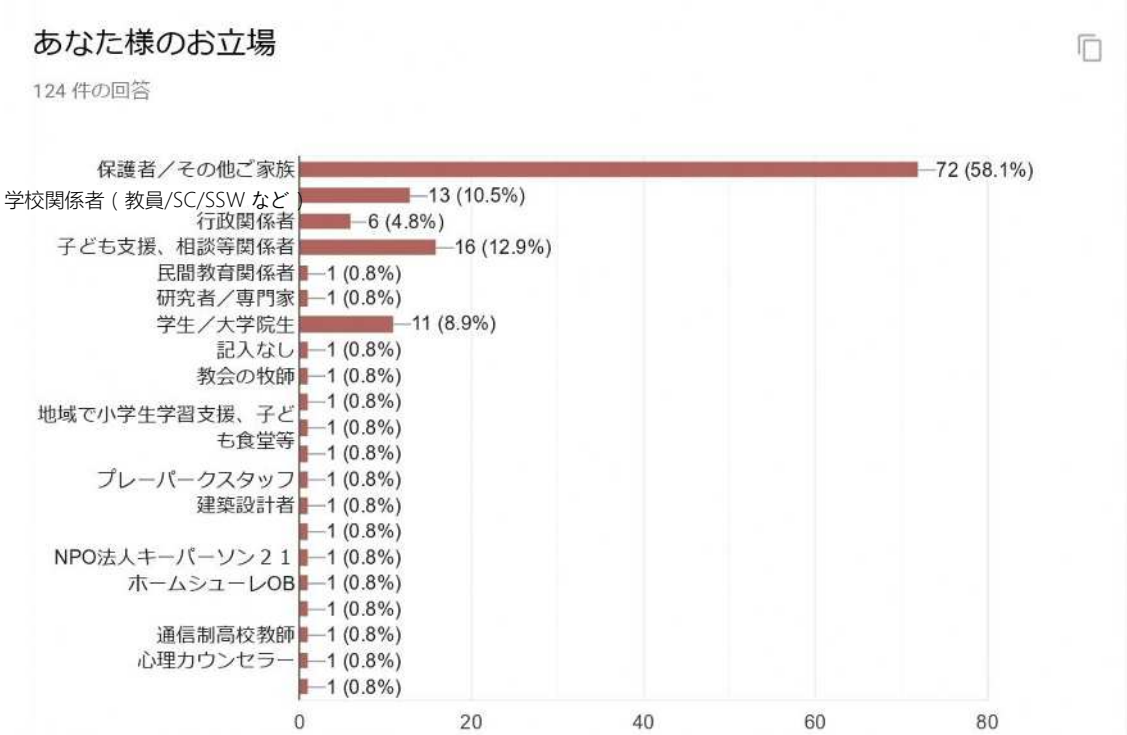
27

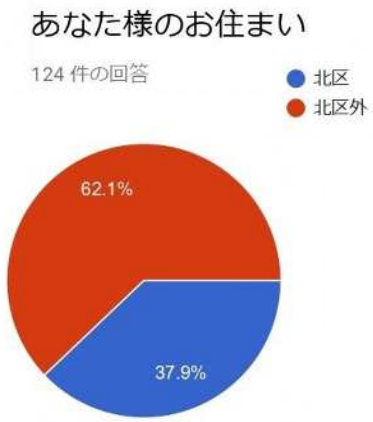
これからも
公民連携のもと
多様な学び・育ちで
笑顔の子どもが
増えていくよう
力を注ぎたいと思います。

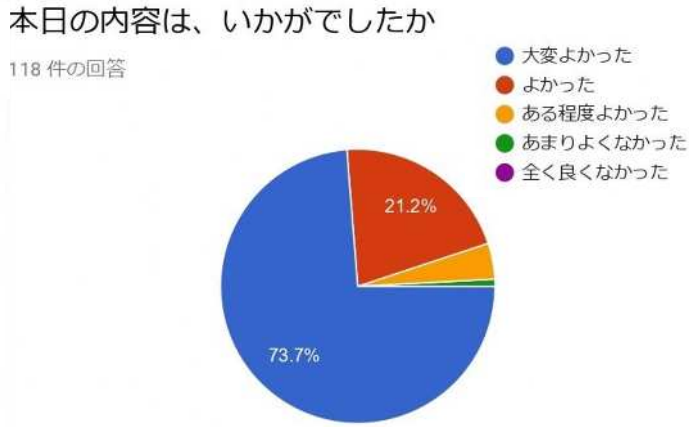
ご清聴
ありがとうございました。

28

【３月１日　子どもの多様な学び・育ちを考えるシンポジウム】
アンケート集計結果







よかった点や感想（抜粋）

- 当事者の声(子どもたち)の語りを聞き、安心した。理由は、子どもには自分で育つ力があるということを確信できたから。一方、不登校になることで相当な重圧を受けていた事を知り、心が痛んだ。子どもが子どもらしく育つ社会にしたい。
- 当事者のお話を伺う事が出来てよかったです。 フリースクールの様子、良さを知ることができ、興味を持ちました。 しかし、子どもを通わせるにはある程度経済力が必要だと思います。 学校に通う事のできない子どもの行く場所が親の経済によって格差が生じないように公の支援が手厚くされていくとよいなと思いました。

- 当事者のお話を聞けるということで参加しました。 葛藤や親からのプレッシャーとか、本人の身になるとよくわかりました。 自分が親として、やはり上から目線になってしまっていると思いました。
- 経験者の方々の生の体験や心情を聞けたこと。 その声を北区の方が聞いているということ。 これからの行政の動きに期待しています。特に早めの金銭的な支援からお願いしたいです。
- とても勉強になりました。 当事者の生の声…とても感動しました。よく、お話して下さったと思います。子どもや保護者の支援に関わる仕事をしていますが、"今"だけに限らず、その子の20才～将来をみすえて（焦る必要もなく）丁寧にお声かけ出来たら…と思いました。一人ひとりの個性が発揮出来る北区になると良いですね。
- 不登校だった方々の生の声をきけて、とても良かったです。 一人一人違う人生、それでいいんだ！と心から思えました。
- 当事者としての言葉がきけたのが良かった 昼夜逆転で悩んでいる子どもも大人も多いと思うが、その理由をきいてすごく納得できた（皆が活動をしている時間にちがうことをしているということ）
- とても良いシンポジウムでした 不登校経験者の話がきけてよかったです 「理由はわからない」「不登校ってこんなにいるんだ」という話が率直な意見だったと感じました
- 学校へ行かないという事で、結局、すべて将来が終わってしまうというイメージがあった。 でも、4人のシンポジストの方の話を聞いて、心が元気だったら目的も持てるし、何でもがんばれるという事が理解できた。 東京シューレという学校も知ることができ、多様な学び場所があると分かり、とても安心した。親に余裕がある事が大切だということも知ることができた。
- 当事者の若者の意見や経験を聞けて大変有意義でした。 現在、娘が不登校中で思い悩んでいたので大変参考になりました。 ありがとうございました。
- シンポジストがとても分かりやすく発表され、辛い過去も伝えてくれ立派だと思いました。 安心して話せる理事長との関係性があるからこそだと思います。 理事長の存在に感謝します。 来年も受講したいです。 みな好きなことに没頭する力がありとても魅力的な方々ですね
- 区との協働ということで初めて参加される方もあり、有意義になったと思います。
- 体験者の話でしたので、実感をもって聞くことができました。 よかったです。
- 皆さん自分の好きや興味を仕事につなげている。やはり「好きなこと」は強い力になるのだと再認識しました。
- それぞれの方が、学校に行っていなかった自分を肯定的に受けとめられていることがとても印象的でした。今、学校に行っていないことで自責感を抱いているお子さんや子どもが学校に行っていないことで悩んでいる親御さんに聞いていただきたい内容でした。なかなか不登校経験者の生の声を聞ける機会がないので、とても良いシンポジウムだと感じました。
- 実際に多様な学びを経て来られた方々の実体験を聞けたこと、特に、不登校当時の思いや生活、声かけについてどう感じたか、何を楽しいと感じて前を向いていったかを知ることができたのが大変ありがたかったです。
- 教育委員会と協働でこのような会を開き、沢山の方々が来られるのはすばらしいと思いました。これが、地方の方にも広がっていくといいなと思いました。 ありがとうございました。
- 年代の異なる当事者のお話から、時代の変化なども感じられました。 今の子どもたちも安心して毎日を過ごせることを願っています。

- 是非息子にも聞いて欲しかった…と思える息子の先が楽しみになるようなシンポジウムでした！ありがとうございました！
- 本日はありがとうございました。 ミニ講演会では現状を知るとともに、不登校の子どもたちが何を求めているのか、ということについて改めて考えさせられました。 シンポジウムでは、実話、経験談として、ひとつひとつの言葉やエピソードが胸に刺さり、又、時折笑ったりもしながら（4 人ともすごくお話が上手で終始楽しかったです）「不登校は問題行動ではない」そういったことを心から受け入れられるようになりました。 学校だけが居場所ではない、他の選択肢があることを私たち教員が一番知って理解しておかなければならないと思います。 学び多きシンポジウムでした。ありがとうございました。
- 教員として、不登校も一つの選択肢と理解あるつもりでしたが、子どもの学校へ行かない選択をどこか否定していた部分があったかもしれません。 よい会でした。
- 経験者の方のお話を伺って親の私自身、視野がひらけた気がしました ありがとうございました
- 当事者の生の声、実体験の話は大変貴重だと思います。 当事者の声を聞かずして、不登校に対する勝手なイメージだけで行政の政策がつくられることがないことを願います。 また、保護者や周囲のおとなたちも、きちんとその子の気持ちを聞く姿勢が大切かと思いました。 学校へ行かなくても子どもの中では多様な学びがくり広げられていると感じました。 学校（教科）以外の学びも大切にしたいです。
- 子どもがゆっくり休めて、その期間に学んだことから好きなものをみつけてそれが将来の自立につながる、改めてよくわかりました。
- 皆様の話をしながら「学校教育とは何なのだろう」という思いが強くなりました。 子どものころのお話がすごく印象的でした。 好奇心を大切にすれば、そしてそういう大人が側にいれば心も何もかも育つのかもしれないと思いました。 皆様お話がとても上手で聞きこんでしまいました。 どうもありがとうございました！
- 型通りではなく、やりたいことのなかから沢山勉強ができたというのが印象的でした。子どもの自主性が育つのですね。 不登校のお子さんのサポートやいじめの相談なども受けてきましたので、大変参考になりました。
- 質疑応答の時間がもっとあると良かった。 息子が現在不登校で昼夜逆転してゲームにぼっとうしています。 心がすごく傷ついていて、「信用できる人間はいない」と言っています。 そういう息子を口では受け入れ、学校に行かなくても良いと言いつつ、この先どうなるのだろうという不安を感じていました。 今日実際不登校を経験された方々の話を聞いて、一人一人の子ども達がその子のペース、タイミングで歩むんだなということが分かりました。 息子もずっとこのままではなく、自分のタイミングで踏み出す時がくるのだろうと信じて寄り添っていきたいと思います。
- 不登校経験者のお話が聞けてよかったです。 不登校であってもそれぞれ自分の進路をみつけて自立していることがわかりました。今、子どもはずっと家にいます。 きっと自分の生き方をみつけてくれると思えたり、不安になったりということを繰り返しているのですが、今日のお話を聞いて少し安心しました。

第３章　政策提案協働事業の評価について

１．　評価の目的

協働事業の成果を団体、主管課、選定委員会で検証することにより、事業の妥当性、実施効果を確認し、協働事業の改善への取組み、今後の協働事業に役立てるために行います。

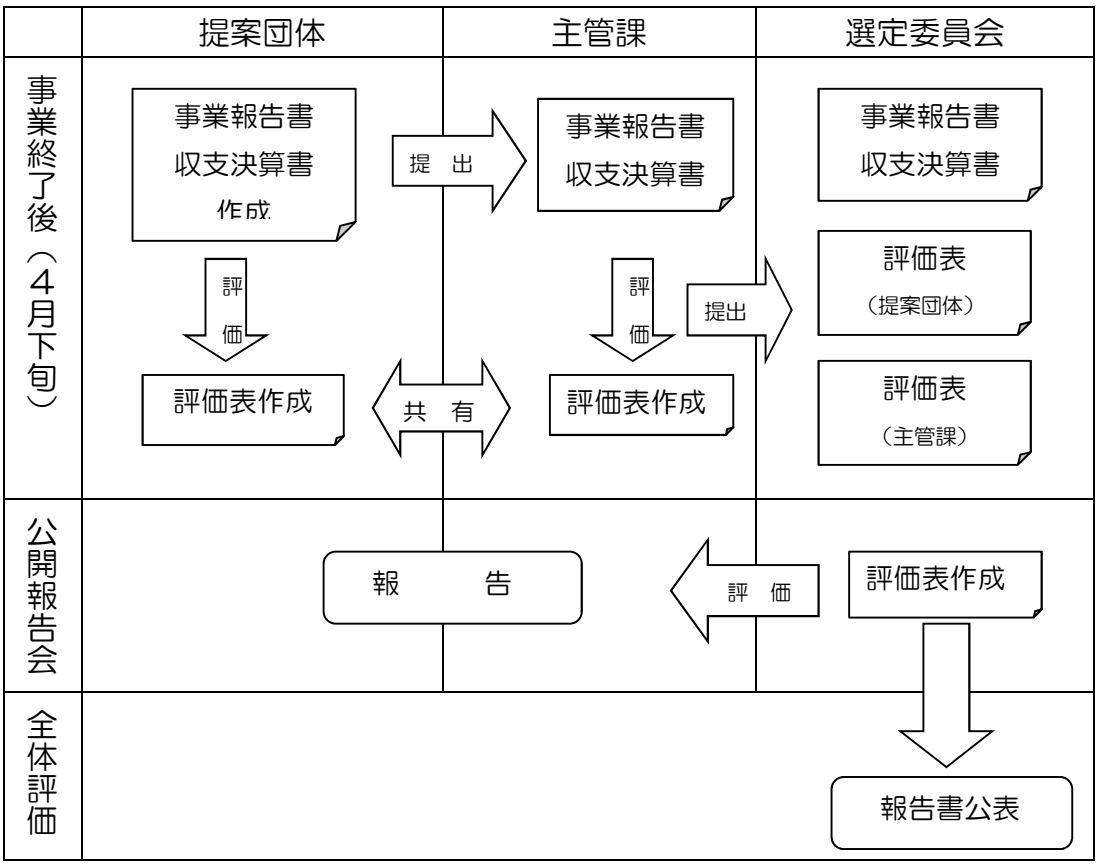
２．　事業の評価方法

協働事業の事業実施主体である団体と主管課がそれぞれ自己評価を行い、その内容を選定委員会へ提出します。事業報告と自己評価に基づき選定委員会が評価し、その内容を公表します。

３．　評価項目

（１）計画段階での取組み
（２）事業の進め方
（３）協働で取り組んだことによる効果
（４）協働事業の成果

４．　評価の流れ



５．　事業の実施主体による自己評価

（１）プログラミング教育の啓発事業

【団体による自己評価】（NPO 法人プログラミング教育研究所）

① 計画段階での取組みについて

・計画の進め方については、不慣れな点が多く、後手に回ることもあったが、概ね順調であった。

② 事業の進め方について

・事業の目的を共有し、役割分担を相談しながら、順調に事業を進めることができた。

・期の半ばで担当の方が交代されたのは残念だったが、複数人数で担当いただき、引継ぎを確実に行っていただいたため、事業に影響を与えることはなかった。

③ 協働で取り組んだことによる効果について

・教育委員会と密接に連携して事業に取り組めた事は、教育分野の事業を進める上で、大きな力となった。

④ 協働事業の成果について

・多くの区民、ボランティア、小学校の本事業への参加・協力を得ることができた。

・延べ 2000 名を超える子どもたちにプログラミングの体験を提供することができた。

・総じて、当初設定した目的を上回る成果があったと思う。

⑤ 全体を通して

・区と非営利団体が協働して課題を解決する「政策提案協働事業」は、区や団体それぞれが、個別に活動しても解決が難しい課題を、効果的に解決していくことが出来る制度であると思う。

・３年間の事業が成果を上げ、本制度の有効性が区民に浸透するよう、今後も活動を続けていきたい。

【主管課による自己評価】（生涯学習・学校地域連携課）

① 計画段階での取組

・実際にプログラミング教育の現場で、活動中である団体からの意見を頂けたことで、明確な事業計画が設定できたかと思う。結果、目的を達成する為に具体的に必要なものを見失わずに、初年度の活動を終えることができた。

事業の進め方
・コンテストの審査委員選定に関してのみ、一部で委員選定の調整をする必要が生じてしまったが、定例会以外にも意見交換の場を必要に応じて適宜設けることで、基本的にはお互いに齟齬なく事業を進めることができた。

② 協働で取り組んだことによる効果
・２０２０年のプログラミング必修化に向けて高まるプログラミング教育　へのニーズに対し、十分に対応できる体制が教育委員会では整っていなかった。プログラミング教育の専門家であるNPO法人と本事業に取り組んだことにより、要望に応えることのできる体制の土台が形成できたように思う。

③ 協働事業の成果
・教育ボランティアの育成については、人数は十分に集まっているが、実際に学校等で授業を行う事が増えることが予想される為、各ボランティアの質の向上に努める必要がある。
・プログラミング教室は１年間定期的に開催を続けてきた結果、区内では認知をされつつあり、各学校から教室開催の要望も増えてきている。次年度以降は更に学校での頻度を増やす事を目的として事業に取り組みたい。
・プログラミングコンテストは想定を超える応募数がみられ、コンテストとしては成功に終わることが出来たかと思う。表彰が続くなどのプログラムの構成的に一部冗長な部分があり、一般参加者が途中で退場をしてしまうのが見受けられたことから、次年度は表彰以外の部分に時間を使った構成での開催を企画したい。

④ 全体を通して
・初年度を終えて、総じて当初想定したものよりも、大きく上回る成果を得られた。区だけでは運営することができなかった事業であり、一先ずは政策提案協働事業の有意性を体現できた結果になったかと思われる。次年度においても、お互いの得意分野を活かした事業運営に努めたい。

（２）北区子どもの多様な育ちを支える地域連携事業

【団体による自己評価】（特定非営利活動法人　東京シューレ）
① 計画段階での取組みについて
・区民、事業対象者の利益、利便性を重視して広報や申し込みの仕組みや体制に Web サイトやメール等を活用していくことが、必要かつ重要である。

② 事業の進め方について
・チラシや情報発信において、それぞれの独自性や裁量を持ちあえるようにできると良い。

③ 協働で取り組んだことによる効果について
・公民がそれぞれの実績や強みを寄せ合うことにより、支援できる子ども・家庭を広げることができた。また、それぞれの不足部分をカバーし合える連携の土台ができた。（親の会や当事者の声の発信、情報交換会など）。
・提案団体が企画実施することにより、子どもの支援に関する民間 NPO 等の情報収集と情報交換が進みやすくなった。（教育委員会から学校への発信、教育委員会以外の行政窓口、私立学校へのアプローチ、区民団体へのアプローチ、ホームページ作成等）。

④ 協働事業の成果について
・子どもの支援に関する民間 NPO 等にとっては、行政連携することにより、活動の信頼性が高まった。東京シューレはもちろんであるが、教育委員会が認知していない民間 NPO 支援者団体が多数あり、まずは認知し合えたことが成果であった。
・教育機会確保法はじめ、国の不登校施策の変化など、教育委員会、区民団体、不登校の保護者に対して、周知に大きな成果があった。
・国は不登校施策における公民連携を推進しているが、本事業は全国的にも先進事例として評価できるものであったと捉えている。（文科省有識者会議や文科省調査研究事業等における評価）。

⑤ 全体を通して
・区民団体として、行政に対して一歩踏み込むことを躊躇したり、踏み込みたくても受け止められない状況は多々あるが、政策提案協働事業の活用によって、正面から踏み込むことができる点が、大変有効な制度であると実感した。
・逆に、行政にとっても変化を起こしたい、期待したい場合に、区民のノウハウを活用できる点は有意義であり、もっと区民団体を活用していただけると良いと感じた。

【主管課による自己評価】（教育指導課・教育総合相談センター）
① 計画段階での取組
・年度当初、ワークショップ型体験講座については、具体的な日程が決まっていなかった。適応指導教室（ホップ・ステップ・ジャンプ教室）においても、すでに行事が決まっており、年度途中での日程調整が難しかった。次年度は大まかな日程は前年度中に決定しておくと良い。

② 事業の進め方
・実施後の改善点などを聞き入れてもらい、改善してもらったので大変に良かったと思う。
・チラシについては、区のホームページに載せて周知できたのは良かった。
・チラシの作成がギリギリの時があった。期日に間に合うように余裕をもって進めて欲しい。
・チラシの配布方法については、なかなか折り合いがつかず難しかった。双方にとってよい形になるようにしていきたい。
・初めての取り組みだったが、地域振興課協働担当が積極的に関わっていただいたため、定期的に意見交換を実施し、事業を進めることができた。
・次年度も引き続き、親の会やフリースペースに不登校相談スクールカウンセラーが事業に参加するとともに、適応指導教室の指導員の参加も検討していきたい。

③ 協働で取り組んだことによる効果について
・最後のシンポジウムでは、想定以上に参加者が集まった。それは東京シューレの名声によるものが大きいと考える。
・東京シューレは、これまでの数々の不登校の親の会・フリースペースを実施してきた実績があり、その企画や運営ノウハウ、人脈等を活用できたこと。
・適応指導教室の不登校の親の会・フリースペースには、毎回 1 人以上の保護者の参加があった。また、適応指導教室のスポーツの時間に、東京シューレのスタッフが参加することで、適応指導教室に通っている児童・生徒がフリースペースに興味をもち始めた。

④ 協働事業の成果
・14 回実施した不登校の親の会には、保護者が 55 名、フリースペースには児童・生徒１８名の参加があった。不登校の親の会には毎回、１人以上の保護者の参加があり良かった。
・３回実施したワークショップ講座は児童・生徒・保護者あわせて４０名の参加があり、良かった。

⑤ 全体を通して
・不登校の親の会、フリースペース、ワークショップ型講座を通して、適応指導教室でのプログラムの幅が広がった。
・ワークショップ型講座では、講師による不登校の経験談や児童・生徒へのアドバイスがあり、大変好評だった。
・計画段階で地域振興課協働担当とも十分な時間をとって、事業の目的や役割について話し合ったうえで、事業実施ができたと考える。

・適応指導教室での不登校の親の会や、フリースペースに当課の不登校相談スクールカウンセラーが参加したため、適応指導教室とのつながりを持つことができた。

６．　選定委員会による評価（個々の選定委員のコメントの抜粋）

（１）プログラミング教育の啓発事業

① 計画段階での取組みについて

・時代のニーズに合った将来性の高い事業である。

・授業でプログラミングが必修化することは報道等で周知されていたので、事業に参加しようという区民のモチベーションは高かったと考える。また、行政側も対応について検討が必要だった中で、本事業はよい実験になったのではないか。ただ、事業実施においては事業者の負担が多く、行政側にはもっと関われる役割があったかもしれない。

・2018 年度から 3 年間の事業の初年度として、素晴らしい滑り出しをしたと考えられる。

・事業への多くの応募者など計画を上回る地域の期待があったこと、ＮＰＯと区との協働の枠に留まらず、企業や大学とのマルチステークホルダーの取り組みを進められたことは素晴らしい。

・結果として、区民ニーズは適切に把握できていたのだと感じる。主管課との連携も非常に良くできているように感じた。今後はより多くの団体側のスタッフが運営に関われると良いのではないかと思う。

② 事業の進め方について

・世代の違う人々（高齢者）などにも認知度を上げてほしい。

・団体は非常に積極的に事業に取り組んでいる姿勢がみられる。

・実際に事業を行いながら内容を変更したり、機材の変更をしたりする際にも情報交換など十分なコミュニケーションをとることができたのではないか。

・PC の台数で定員を決めざるを得ない現状があり、20 名の定員に 100 名の応募があるなど区民のニーズが非常に高いことが確認されている。

・Ｗｅｂでの動画公開など成果の共有が進められていることは評価できる。

・事業としては、大変良い成果が上がっていると感じる。発表の中でもコメントがあったが、今後は現在課題となっている、ボランティアスタッフの育成が充実することを期待している。

・NPO と教育委員会の各々の強みを活かしたと思う。

③ 協働で取り組んだことによる効果について

・民間の事業者がその経験とアイデアを出すことにより、行政だけでは行うことが困難と思われる事業を展開することができた。また、行政が協働すること

により民間だけでは得られない信頼性を得ることができたと思われる。
・当該 NPO と区、双方の強みを活かしていることが強く感じられる。
・区による広報の効果は大きく、協働のメリットが活かせている。
・本事業は、行政だけでは中々取り組めなかったと思う。協働というカタチがうまく機能していると思われる。

④ 協働事業の成果について
・教える側の人材育成は果たして出来たか疑問がある。
・事業の内容、参加者の特性や数なども当初の計画以上の結果を得ることができた。インストラクターの養成など課題も見出すことができ、次期への反映も行えると考える。
・企業や地元大学のコンテスト参加など、NPO と区の協働を超えたマルチステークホルダーによる取り組みまで昇華されていることは特徴的である。
・レベルの高い講座の集客が少ないこと、平日ボランティアの不足などの課題も残したが、工夫により課題解決を十分にできると思われる。
・教育先進都市北区に向けて、無理することなく行ってほしい。

⑤ 将来性
・区民の関心のあるテーマであり、今後も主管課との連携を深め、区が把握できなかった課題の発見や問題にチャレンジすることを期待している。
・2020 年度の学校の取り組みが教員のみで可能か疑問。
・必修開始に向けてプログラミングへのハードル解消や興味関心の醸成などさらに果たすべき役割はあるのではないか。1 年間の経験が活かされてさらに実効力のある事業への発展が期待される。
・マルチステークホルダーの取り組みをさらに拡充できると素晴らしい。
コンテストの応募作品も他の自治体の取り組みよりも多く、今後は北区の特徴ある事業として区のブランディング、シティプライドの醸成をも視野に事業を拡張できることを大いに期待する。
・初年度、計画通りコンテストまでできたことは評価できる。

（2）北区子どもの多様な育ちを支える地域連携事業

① 計画段階での取組みについて
・不登校のお子さんのいる親にとって大変力強い事業である。
・学校へ行くことが困難な児童・学生を社会がどう支えていくかという課題は非常に重要であり、いままでの学校教育偏重のあり方では解決が困難なことが理解されるようになっている。学校への再登校を第一目標としてきた行政と学校以外の居場所を提供してきた事業者との協働は革命的である。

・不登校は問題行動ではないとの考えに基づき、アクティブな事業展開を実施している。情報交換会を通じて継続的な情報交換を進めようとしている。アンケートの実施など分析的に事業を進めようとしていることは、高く評価できる。
・大勢の参加者を得ておりチラシ配布も広報効果を生むなど成果を上げている。
・ネットワークを広げようとしている。また、ファンドレイジングの努力をしていることも素晴らしい。
・もともと、教育委員会と団体との間に、同活動の背景にある不登校の考え方に、少なからず相違があり、そのことが、役割分担や計画の立案にも影響があったように感じる。しかし、次第に歩み寄りが見られるようになった。

② 事業の進め方について
・団体側（民間）の熱意と行政とのギャップは多少感じるが、学校関係者（教育）及び教育委員会も意識改革の一端が見える。
・行政の持つ従来の思考回路を一気に民間的に変革することは難しく、また、行政として守るべきものある中で一定の議論、協議を行うことができた。事業を進めるうえでの困難な課題についても乗り越えることができた部分も多いのではないか。
・協働による情報交換は大きな成果であると認める。教育委員会、学校関係者の意識変革が進んでいることは、評価に値する。
・実際に事業が始まっていくにつれ、主管課と団体が双方で、お互いの立場を理解するために努力をしてきた様子を伺い知ることができた。

③ 協働で取り組んだことによる効果について
・教員、学校関係者の意識改革につながった。
・行政と民間が一つの課題解決に向けて向き合うことで今まで踏み込むことができなかった取り組みに結び付いた。双方とも片方だけでは困難な課題についても取り組むことができたのではないか。
・主管課からの助言を効果的に活かしていることは素晴らしい。
双方が互いの文化の違いを理解しあった点は、協働推進の参考事例になる。
・不登校への理解を深められた活動。

④ 協働事業の成果について
・学校側とシューレ側とは今まで相反するものであったが、学校側や教育指導課の視点も単なる怠けと不登校は違う事も把握してきている。発達障害やその他の理由もあるが、一人ひとり理解をして、その人の長所を伸ばし早く社会に馴染むようになってほしい。
・公開事業に対する参加者の数や課題解決に向けた取り組みについても十分とは言えないが、ある程度の実績にはつながったと考える。また、浮き彫りとな

った課題もあり、今後改善する道のりが見えた部分もあるのではないか。
・ホップステップジャンプ教室では、双方の強みを活かしており、区民福祉の向上に貢献している。
・多少のボタンの掛け違いはあったものの、事業自体は一定の成果を見せているように思う。同時に、団体の主張が「正」であり、既存の教育委員会の方針が「誤」という雰囲気が定着してしまわないように、留意する必要があるように感じている。今回の法律改正も「多様な学びを認める」ために、改正されたのであって、学校教育が否定された訳ではなく、学校が今なお、子供たちにとって中心となる学びの場であること自体は変わらないのであれば、多様な学びの場を認めつつも、学校復帰への努力が失われることが無いように願う。
・当該 NPO と教育委員会の立場や組織、思考の違いにより発生した事象を乗り超えて信頼関係を醸成させようとしてきたことは、特記すべきである。

⑤ 将来性
・相互の取り組みをより理解することが大切であり、多いに期待する。
・地域に根付いた継続的な事業になっている。今後も協働事業の拡大を図り、主管課の意識変革を進めて欲しい。
・生徒や学生の孤立は地域社会にとって大変大きな課題であり、様々な角度から解決に向けた取り組みが求められる。行政、民間ともにその限界を超えた解決策を生み出すことで豊かな地域の創造に結び付くものと期待する。
・地域課題の解決に当該ＮＰＯの活動は必須と言える。学校や行政のみならず様々な活動者などとの幅広いネットワーク活動の展開を期待する。
・学校と団体がお互いの役割において、良い緊張感とバランスを保ちながら、子供にとってより良い学びの場、学びの機会の提供と選択肢が増えていくことを期待する。

平成 30 年度　北区政策提案協働事業報告書

令和元年１２月１８日発行

刊行物登録番号
３１－１－０８５

東京都北区地域振興部地域振興課
発行　東京都北区王子一丁目１１番１号
電話　5390-0092（ダイヤルイン）